

米国 カリフォルニア州産ブドウの輸出に天候と旺盛な内需が影響

FreshPlaza 2023年11月2日

カリフォルニア州産ブドウの輸出シーズンは、まもなく終わりを迎えるかもしれない。コーエン青果物販売会社のブランドン・ルパート氏は、「これまでのところ必要なものは入手できているが、出荷量は大幅に減少している。弊社では従来のように多くのブドウを探し回ってはいない」と言う。(以下「」は同氏の発言)

今シーズン、コーエン青果はカリフォルニア州からフィリピンにブドウを出荷しているが、供給量が限られていることとブドウの状態があまり良くないことから、タイ、シンガポール、マレーシア、インドネシアなど他の輸出市場には出荷しないこととした。

ブドウの供給量が減ったのは、8月のハリケーンヒラリーの後である。「嵐に不意打ちされたような人が多い。生産者は予報が出始めてから危険なことに気づき、嵐の直前に多くのブドウを収穫して保管したと思う。それから1、2週間経つとその影響を感じ始め、それ以来苦労している。」

予想よりは良い

そうは言っても、出荷シーズンは予想よりもわずかに長くなるようである。「1、2か月前には今シーズンの先行きがかかなり暗く見え、人々はずっと早く終わらせたいと思っていた。しかし、被害を受けたのはほとんどが収穫できる状態の品種だったことから物事がうまく進んだ。晩生のブドウは成熟するのに十分な時間があり、状態が良くなった。現状では、収穫できると思っていなかった果実が良好になってきているので、できる限り出荷シーズンを延ばすことができる。」

同氏はこれまで直接輸入を扱っていない。しかし、カリフォルニア州産の出荷シーズンが終わると、取引先は他の生産国からの輸入品を調達するよう同社に求めてくるため、輸入品を扱うように戦略を変更する方向に向かっている。

品種については、コーエン青果は、かなりの量のレッドグローブ、オータムロイヤルブラックシードレスのほか、アリソンとティムコレッドシードレスを出荷しているが、後者の品種は急速に減少している。緑色ブドウとしてはオータムキングがあるが、それも数日以内に終わる。「これらの品種としては遅くなってきているし、難しいシーズンだったので今が終わる時だ。」

輸出需要は低い

輸出向けの需要については、供給側の状況のために過去からの最低水準にある。ルパート氏は、通常は週に2〜3コンテナを出荷するところであり、今は海外での年末商戦のために週に6〜8コンテナを積み込み始める時期であるのに、ほとんど何も積み込めない状態だと指摘している。

一方、動きがあるのは、カリフォルニア州産ブドウに対する米国内の需要が強いため、価格が上昇していることである。「供給量が少ないため、種なし赤ブドウ品種がこの時期としては普通ありえない記録的な価格で取引されている。黒ブドウ品種とレッドグローブ品種については、例年と比べてかなり安定している。海外向けの種無し赤ブドウは、販売先から値段が高すぎると言われているため仕入れることができない。」

これらすべてのことにより、カリフォルニア州のブドウ業界は将来の新しい可能性について考えを巡らせている。「私が話し合った中で生産者達から得た感触は、1億2,000万箱のブドウを収穫しようとしていたシーズンには、それが実際には業界に害を及ぼしていたことに気づいたということだ。ハリケーンで、彼らは確かに多くのブドウとお金を失った。しかし、7,500万箱から9,000万箱のブドウしか栽培していないのに、作物の管理がはるかに容易になり、より良い価格を得られることがわかった。このことには、多分彼らはそれから学び、生産量を増やそうとして毎年同じ状況 - 冷蔵倉庫が満杯になり、持って行く先がなく、価格が底値になる - に陥るよりも、管理しやすい出荷量に戻るだろうという良い側面がある。たまには、出荷量を減らして、そこで起こっていることをよりよく把握するシーズンがあっても良い。」

執筆者: アストリッド・ヴァン・デン・ブローク